

辺縁群の性別不合当事者の増加の背景

仲川学^{a)} 阿部輝夫^{a)}
^{a)}あべメンタルクリニック

要旨

阿部メンタルクリニック（以下当院という）では長らく 性別不合（Gender Incongruence）の当事者のケアを行なっており 当院開設の1996年以降2024年5月15日現在 トランス男性2,661名 トランス女性2,328名の計4,989名が来院している
 2018年（平成30年）に診療報酬改定が施行され 性別適合手術や乳房切除術などの性別不合の手術療法に対する健康保険の適用が開始されたのを契機に 受診者の割合に変化が見られるようになってきた 保険適用前の5年間（2013年～2018年）と 保険適用後の5年間（2018年～2023年）を比較して受診者の特徴を調査したところ 受診者全体における辺縁群のトランス男性の割合が有意に上昇 および トランス女性は中核群が有意に上昇という変化が見られた
 辺縁群のトランス男性の大幅な上昇要因としては 乳房切除術が保険適用になったこと 性別不合に対する一般の周知度が高まってきたことが挙げられる また トランス女性の中核群の上昇については 周知度の高まり 及び医療アクセスが容易になったことが挙げられる

キーワード：性別不合 中核群 平成30年度診療報酬改定 辺縁群 保険適用

目的

当院では1996年の開設以来 性別不合（Gender Incongruence）の当事者のケアを多く行なっており 初診者のうちの約40%が性別不合と性障害の相談者となっている 2024年5月15日現在、トランス男性2,661名、トランス女性2,328名の、合計4,989名が来院している
 2018年（平成30年）4月1日に平成30年度診療報酬改定が施行された．それを契機に 受診者の割合に変化が見られるようになってきた 健康保険の適用開始前に当院を受診した当事者は その多くが性別適合手術を含めた身体的治療を希望し 戸籍変更をする場合が多く いわゆる性別不合の中でも中核群と言われる当事者が多く来院していた 健康保険の適用後 中核群の来院もあるものの 特にトランス男性においては いわゆる辺縁群と言われるGIの当事者が増加傾向にある 具体的には 乳房切除術のみ希望し ホルモン治療や性別適合手術を望まないケースである 今回 2018年の健康保険開始前後の受診者を比較し その割合を比較する事で当院受診者の傾向を報告する

方法

当院に来院した性別不合者総数4,989名の中で 性別変更の申立てを行った当事者は1,993名であった
 2007年3月に発足した浦安ジェンダークリニック委員会（以下浦安G C）にて身体的治療への移行の可否について検討している 手術が健康保険適応になった前後5年間それぞれの統計を取り 中核群と辺縁群の変化割合について検討した 具体的には 2013年1月の第69回浦安G Cから2023年11月の第196回浦安G Cまでの10年間の全542症例について その内訳および特徴的变化について調査した なお 中核群と辺縁群については、1999年に阿部が提案した中核群と辺縁群の定義（表1 ¹⁾）に基づいて分類を実施した なお、本稿の数字は当院の来院者の全数調査である．

(表1) TS (trans-sexualism) の中核群と辺縁群		
	中核群 (primary)	辺縁群 (secondary)
①発症	早期	後期
②性自認	確固	流動
③性器嫌悪	強い	弱い
④性別再判定手術(SRS)願望	強い	弱い
⑤性的指向	異性愛	同・両性愛

結果

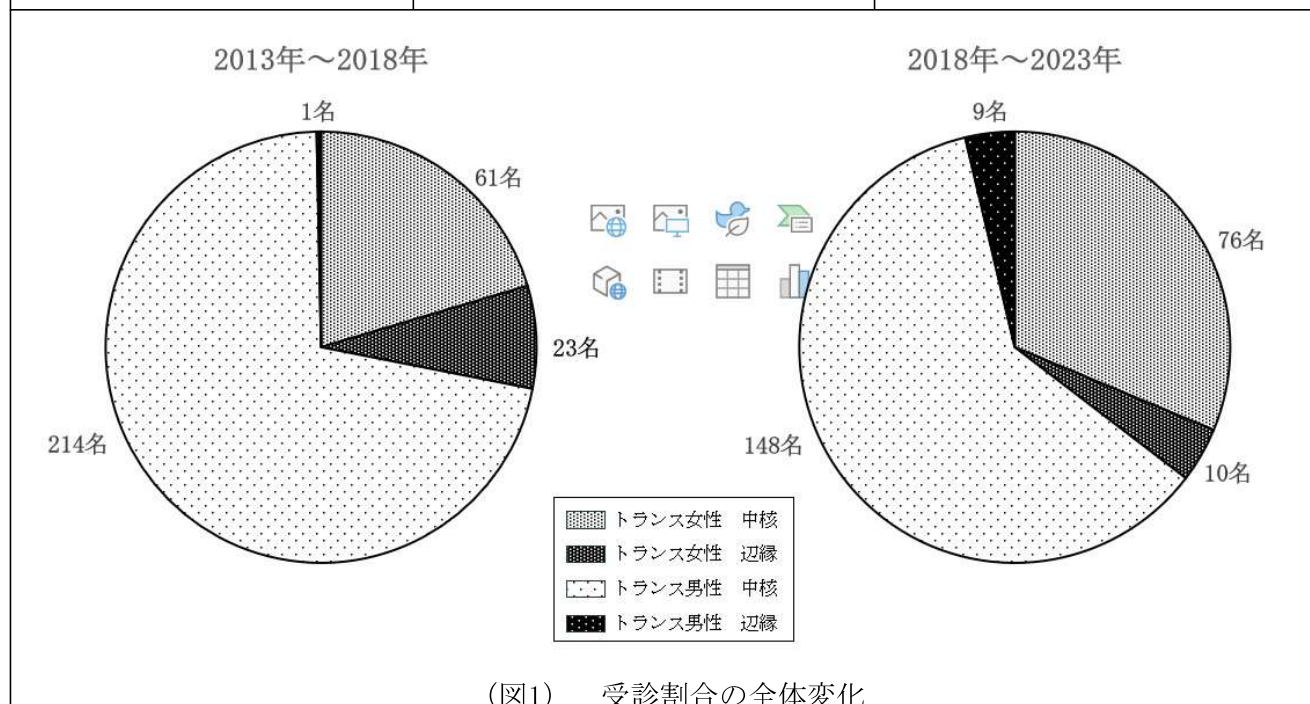
保険改定前の2013年から2018年までの5年間の症例内訳は トランス女性においては 中核群61例 辺縁群23例であった またトランス男性は 中核群214例 辺縁群1例であった 2018年から2023年までの5年間の症例内訳は トランス女性においては中核群76例 辺縁群10例であった トランス男性は 中核群148例 辺縁群9例であった（表2, 図1 2013年～2018年に比較して、2018年 2023年では、トランス女性については辺縁群の受診割合は有意に減少し トランス男性の辺縁群の受診割合は有意に増加していた．なお、ここで用

いた統計的検定法は、2018年前後で受診割合が同じという帰無仮説に対する二項分布を用いた片側検定でいずれも P 値は0.01以下

また 抑うつ状態やパニック障害などの精神疾患の合併者は トランス女性では13例 トランス男性では10例とあまり差はなかった。なお結婚歴のあるものは トランス女性では19例であったが トランス男性で1例のみであった

(表2) 受診人数の全体変化

	2013年～2018年	2018年～2023年
トランス女性 中核	61名	76名
トランス女性 辺縁	23名	10名
トランス男性 中核	214名	148名
トランス男性 辺縁	1名	9名
合計	299名	243名



(図1) 受診割合の全体変化

考察

表2において保険適用後に顕著に見て取れた傾向としては 辺縁群のトランス男性の数が上昇し 受診者全体における辺縁群のトランス男性の割合が有意に上昇したこと (P 値 = 0.01) トランス女性の中核群は、統計的に有意ではないものの (P 値 = 0.11 上昇傾向にあることが挙げられる 特に については 2013年～の5年間で全受診者における辺縁群のトランス男性の割合が0.33%だったのに対して 2018年～の5年間で3.7%と 10倍を超える増加となった

辺縁群のトランス男性割合の大幅な上昇要因としては 乳房切除術が保険適用になったこと 性別不適合に対する一般の周知度が高まってきたことが挙げられると考える

乳房切除術の保険適用が上昇要因として考えられる根拠として 当院で2018年以降受診した辺縁群のトランス男性9名のうち 8名が乳房切除術を希望している また 「精神医学64巻8号」²⁾ によると 2018年の診療報酬改定後 乳房切除術の保険適用が認められたことで 性別適合手術に関心を持つ層が拡大した可能性が示唆されており これにより 性別違和を抱える一部の当事者が 性転換手術全体ではなく乳房切除術のみを希望する傾向も見られるようになったとされている

一般の周知度が高まったことを示す例として、株式会社電通が2020年に実施した調査³⁾では、「LGBT」という用語に対する認知度が、2015年には37.6%だったのに対して、2020年には69.8%に達しているとの報告がある。また同調査では約90%の回答者が、性的多様性について学校で教えるべきだと考えていることが明らかになった。これらは日本におけるLGBTQ+の認識が確実に進展していることを示しており、特に若年層における教育や認知度の向上が見られることが強調されている。

また 当院の受診者数全体は 保険適用前の5年間と改定後の5年間と比較すると56名の減少となっているが これも性別不合を扱う病院数が増えたことの証左であると考え 「日本性同一性障害・性別違和と共に生きる人々の会」⁴⁾によると 戸籍の性別の取扱いを変更した者の数が2013年は769名だったのが 2022年には889名となっており 性別不合の当事者がクリニックを受診し必要な処置を受ける流れが広がってきたことが見て取れる

顕著に見て取れた傾向の2つ目であるトランス女性の中核群が優位に上昇した主要因としては 上に挙げた周知度の高まり 及び医療アクセスの容易性があったと考えられる 加えて 性別適合手術が保険適用となったことで 当院においては カウンセリングに対してより真摯に取り組む当事者の数が増えたことも追記しておく

一般の周知度が高まり 性別不合を扱うクリニックが増えたことは 深刻な悩みを抱える当事者にとって良いことであるが それに相関して ネットなどで、ホルモン療法に対する誤った情報/一方的な悪評に簡単にアクセスできてしまう (例: 早死にする, 自殺した人があるなど) ことが, 必要な治療を遠ざけてしまうことも懸念される. 当院では 2013年から2023年の性別不合の当事者の中で 抑うつ状態やパニック障害などの精神疾患の合併者が トランス女性では13例 トランス男性では10例であったが, 特に深刻な精神疾患を有している当事者へのアクセスは喫緊の課題であると考えられる 性別不合を扱うクリニック・病院が 正しい情報を広く社会に発信していくことで サポートを必要としている当事者が早期に医療機関に通えるようになることが望ましい

結論

当院に来院した性別不合者4,989名のうち 性別変更の申立てを行った当事者は1,993名であった. そのうち 2018年 (平成30年 診療報酬改定が施行された前後5年間の受診者の特徴を調査したところ, 受診者全体における辺縁群のトランス男性の割合が有意に上昇, ② トランス女性では中核群が, 統計的に有意ではないものの上昇傾向にあるという変化を見ることができた.

特に変化割合が顕著であった 辺縁群のトランス男性の割合が有意に上昇した理由として, トランス男性に対する乳房切除術が保険適用になったことと 性別不合に対する一般の周知度が普遍化してきたことが

辺縁群の増加の大きな要因であると考えられる 当事者が正しい情報にアクセスし 必要なサポートを早期に行えるような環境を作るために 今後も性別不合を扱う医療機関が, 正しい情報を広く社会に発信していくことが望まれる

謝辞

本稿に対し適切なコメントをいただいた2名の査読者に感謝申し上げる. なお, データの統計分析に関しては順天堂大学健康データサイエンス学部の岩崎学教授の監修を受けた.

文献・注

- 1) 阿部輝夫: 性同一性障害関連191例の臨床報告 ―統計分析と今後の問題点―. 臨床精神医学 第28巻 (4) 373-381 1999
- 2) 難波祐三郎: 性同一性障害/性別違和の外科治療 (性別適合手術). 精神医学. 764: 1142-1148, 2022.
- 3) https://www.dentsu.co.jp/en/news/item-cms/2021023-0408en_3.pdf
- 4) <https://gid.jp/research/research0001/research2023101001/>

*著者連絡先: 279-0004 千葉県浦安市猫実4-18-27-6F

あべメンタルクリニック 仲川学

URL <http://abe-mental.sakura.ne.jp/>

e-mail abe.mental.clinic@gmail.com

Phone 047-355-5335

Fax 047-685-5335